研　究

出産前後の里帰りが父子関係，父性，夫婦関係に与える影響と支援方法

久保　恭子[1)]，岸田　泰子[2)]，及川　裕子[3)]，田村　毅[4)]

〔論文要旨〕

本研究の目的は出産前後の里帰りが父子関係，父性，夫婦関係に与える影響と父親への支援方法を明らかにすることである。妊娠期から子どもが2歳になるまで，父子関係，父性，夫婦関係について，父親196名を対象に縦断的に質問紙調査を実施した。結果，里帰り群の方が「子どもが邪魔である」,「子どもがわずらわしい」など,子どもに対する負の感情をもっていた。夫婦関係についても「妻との関係に満足している」,「妻との関係は安定している」において，里帰り群の方が有意に低く，夫婦関係が不安定であることがわかった。支援方法として，父親の子ども理解を促し，子育てが楽しいと感じられ，また，夫婦関係を調整できるような場が必要であることが示唆された。

Key words：里帰り出産，父子関係，夫婦関係，父性，父親支援

Ⅰ．はじめに

日本の育児文化の中に出産前後の里帰り（以下，里帰りとする）がある。里帰りは，出産前後の安静時に祖母などの夫以外の助力が得られること，母親が実家に戻り，気兼ねなく過ごせることなどの利点がある一方で，妻の実家依存傾向が強く，夫婦関係の確立ができにくいこと，父親としての役割の獲得が難しいことが報告されている[1~4)]。出産前後の娘を支援する女性（祖母）を対象にした調査でも，実娘や孫の世話をすることは，祖母が新たな役割を獲得すること，夫との関係が孫の話題で深まることが明らかになっている[5,6)]。これらの先行研究から，里帰りという日本独特の育児方法が重要な子育て支援であること，また，子育てを支援する祖母にとっても役割の獲得や祖父母間での関係性を良好にすることがわかってきた。しかし，里帰りが父子関係，父性，夫婦関係に与える影響についての研究は1980年代に散見されるが，近年はなされていない。近年の家族事情の変化は大きく，里帰りが父子関係，父性，夫婦関係に与える影響を調査することは，今後の子育て支援の方法を知るうえで有用であると考えた。本研究の目的は，里帰りが父親に与える影響を明らかにし，父親への育児支援の方法を明らかにすることである。

Ⅱ．方　　法

1．対象者

東京および近郊に住む父親。

Effects of Mother's Return to Her Parents' Home for Childbirth on Formation of Fatherhood, Father-Child Relationship and Marital Relationship and the Support System
〔2319〕
受付 11．3.31
採用 12．1.25

Kyoko KUBO, Yasuko KISHIDA, Yuko OIKAWA, Takeshi TAMURA
1）横浜創英大学看護学部看護学科（看護師/研究職）
2）杏林大学保健学部看護学科（助産師/研究職）
3）園田女子大学人間健康学部人間看護学科（助産師/研究職）
4）田村 毅研究室（医師/研究職）
別刷請求先：久保恭子　〒184-0013 東京都小金井市前原町4-1-20
Tel/Fax：042-301-9601

Presented by Medical*Online

2．研究方法

質問紙調査。妊婦とそのパートナーに第1次調査質問紙を配布（6,289組），この中から，今後の研究に協力の意思を示した1,390組に出産後4か月に第2次調査質問紙，1年後に第3次調査質問紙，2年後に第4次調査質問紙を配布した。調査期間は2001年から2004年であった。質問紙の内容は子どもの年齢，子どもの体重，里帰りの有無，子どもへの感情，育児行動，夫婦関係，子育てにおける感情，父親の心境などである。子どもへの感情の質問文は「子どもがいじらしいと思う」，「子どもが邪魔だと思う」，「子どもをわずらわしいと感じる」であり，「そのとおり（4点）」，「どちらかというとそのとおり（3点）」，「どちらかというと違う（2点）」，「違う（1点）」の4段階尺度，育児行動では「あなたは①沐浴・入浴，②授乳・食事介助，③おむつ交換，④子守をどのくらいしますか」というそれぞれの質問文に，「たくさんする（4点）」，「ときどきする（3点）」，「あまりしない（2点）」，「まったくしない（1点）」の4段階尺度，子育てにおける感情では，現在の生活の中で「子育てでカッとなることがある」，「他の家と育児の仕方が違うと不安になる」，「自分の育児に自信が持てない」，「仕事や家事でイライラする」，父親の心境では「妻にあたりたくなる」，「愚痴を言いたくなる」，「父親の実感がある」，「毎日がおもしろくない」，「取り残された気分だ」，「一人ぼっちで寂しい」という質問項目に「よくある（4点）」，「時々ある（3点）」，「あまりない（2点）」，「まったくない（1点）」の4段階尺度で回答を得た。夫婦関係の安定性や満足感についてはより詳細な感情を把握したいと考え「妻との関係は安定している」，「妻との関係に満足している」という質問文に対し「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」の10段階尺度で回答を得た。これらの質問項目は，小児看護学，母性看護学，家族看護学，臨床心理学，発達心理学，児童精神医学の研究者らと質問項目等についてディスカッションを繰り返し行い，妥当性，信頼性の向上に努めた。分析方法は統計パッケージ SPSS11J を用いて，マンホイットニーのU検定を用いて検討した。

3．倫理的配慮

個人情報については厳重に管理し，データ処理にあたってはコード化し文書上の匿名性を守秘すること，協力の有無でなんら不利益を被らないこと，研究終了後データは速やかに処分をすることを口頭もしくは文書で説明をし，了解を得た。本研究は，研究者の所属していた大学の倫理委員会にて承諾を得た。

Ⅲ．用語の定義

本研究では，瓢風らの里帰りの定義を用いた[7]。里帰り出産とは，妻の実家の近くにある施設で出産し，出産の前後を妻は実家で過ごすこととし，また，その期間を概ね1か月前後とするとした。

Ⅳ．結　　果

1．対象者の概要

妊娠期，出産後4か月，1年，2年と縦断的にすべての質問紙調査に回答し，第1子を出産したケースで，なおかつ，出産時に大きなトラブルがあったケース（母親の大量出血，出生児が重症な仮死状態，低出生体重児，早産など）や，父親になった年齢が18歳以下を除く196名の父親であった。父親の年齢は児の出生時，最小19歳，最高49歳で平均31.1歳（±5.0）であった。児の平均出生体重は2,994 g（±382 g）で，分娩週数は38週から42週であった。このうち，里帰り群91組，里帰りなし群が105組であった。

次に，各項目において，里帰りの有無で有意な差があった時期と項目をまとめた。

2．里帰りと子どもへの感情（表1）

里帰り群の方が子どもの誕生1年後に「子どもが邪魔である」（$p=0.008$），「子どもがわずらわしい」（$p=0.005$）と回答していた。一方，里帰りなし群では，子どもの誕生2年後で「子どもがいじらしい」（$p=0.008$）と回答していた。

3．里帰りと実際の育児行動（表2）

里帰りなし群の方が，子どもの誕生2年後，子どもの入浴（$p=0.026$），子どもの子守を行っていた（$p=0.05$）。

4．里帰りと子育てにおける感情（表3）

里帰り群の方が1年後「子育てでカッとなることがある」（$p=0.032$），2年後「他の家と育児の仕方が違うと不安になる」（$p=0.001$），「自分の育児に自信がもてない」1年後（$p=0.019$），2年後（$p=0.008$），「仕事や家事でイライラする」1年後（$p=0.016$），2年後（$p=0.041$）と有意に高く回答していた。

Presented by Medical*Online

表1　里帰りと子どもへの感情

		出産後4か月	1年		2年	
子どもがいじらしい	里帰り	3.90(0.35)	3.48(0.90)		3.57(0.74)	p＝.008
	里帰なし	3.90(0.31)	3.56(0.82)		3.82(0.50)	
子どもが邪魔	里帰り	1.24(0.45)	1.32(0.57)	p＝.008	1.58(0.73)	
	里帰なし	1.23(0.44)	1.18(0.46)		1.48(0.75)	
子どもがわずらわしい	里帰り	1.27(0.47)	1.36(0.59)	p＝.005	1.65(0.75)	
	里帰なし	1.26(0.48)	1.20(0.45)		1.51(0.78)	

平均値（SD）
Mann・WhitneyのU検定

表2　里帰りと実際の育児行動

		出産後4か月	1年	2年	
沐浴（入浴）	里帰り	3.29(0.85)	3.26(0.77)	3.08(0.94)	p＝.026
	里帰なし	3.40(0.83)	3.35(0.76)	3.33(0.66)	
授乳　食事介助	里帰り	2.12(0.96)	2.91(0.65)	2.81(0.73)	
	里帰なし	2.20(0.98)	2.86(0.67)	2.83(0.73)	
おむつ交換	里帰り	2.85(0.75)	2.78(0.71)	2.59(0.80)	
	里帰なし	2.86(0.81)	2.79(0.82)	2.76(0.82)	
子　守	里帰り	3.10(0.68)	2.38(0.91)	2.25(0.89)	p＝.05
	里帰なし	3.16(0.69)	2.49(0.87)	2.46(0.87)	

平均値（SD）
Mann・WhitneyのU検定

表3　里帰りと子育てにおける感情

		出産後4か月	1年		2年	
子育てでカッとなることがある	里帰り	1.98(0.88)	2.96(1.21)	p＝.032	2.17(1.15)	
	里帰なし	1.76(0.84)	2.78(1.20)		2.21(1.19)	
他の家と育児の仕方が違うと不安になる	里帰り	1.52(0.69)	1.95(0.50)		1.52(0.57)	p＝.001
	里帰なし	1.41(0.58)	1.96(0.58)		1.48(0.61)	
自分の育児に自信がもてない	里帰り		1.82(0.72)	p＝.019	1.82(0.63)	p＝.008
	里帰なし		1.63(0.73)		1.64(0.61)	
仕事や家事でイライラする	里帰り		1.91(0.85)	p＝.016	1.94(0.76)	p＝.041
	里帰なし		1.77(0.83)		1.84(0.86)	

平均値（SD）
Mann・WhitneyのU検定

5．里帰りと父親の心境（表4）

里帰り群の方が1年後「愚痴を言いたくなる」（p＝0.015），2年後「妻にあたりたくなる」（p＝0.049），「取り残された気分だ」（p＝0.046）と回答した。また，「毎日がおもしろくない」1年後（p＝0.039），2年後（p＝0.044），「一人ぼっちで寂しい」1年後（p＝0.012），2年後（p＝0.048）と有意に高く回答した。一方，里帰りなし群では，出産後4か月で「父親の実感がある」（p＝0.014）と回答した。

6．里帰りと夫婦関係（表5）

まず里帰り前の夫婦関係を確認する。「妻との関係は安定している」里帰り群6.84（1.16），里帰りなし群6.89（1.20），「妻との関係に満足している」里帰り群6.71（1.34），里帰りなし群6.75（1.37）であり，有意な差は見られなかった。

出産後では，里帰りなし群の方が1年後「妻との関係は安定している」（p＝0.039），「妻との関係に満足している」（p＝0.026）と回答していた。

Presented by Medical*Online

表4 里帰りと父親の心境

		出産後4か月		1年		2年	
妻にあたりたくなる	里帰り	1.67(0.73)		1.96(0.69)		2.07(0.83)	p＝.049
	里帰なし	1.60(0.68)		1.86(0.77)		1.87(0.79)	
愚痴を言いたくなる	里帰り	1.70(0.72)		2.14(0.84)	p＝.015	2.13(0.84)	
	里帰なし	1.65(0.76)		1.93(0.82)		1.97(0.94)	
父親の実感がある	里帰り	3.43(0.66)	p＝.014	3.47(0.68)		3.58(0.56)	
	里帰なし	3.55(0.61)		3.49(0.63)		3.60(0.63)	
毎日がおもしろくない	里帰り	1.67(0.70)		1.78(0.74)	p＝.039	1.85(0.61)	p＝.044
	里帰なし	1.59(0.70)		1.63(0.70)		1.66(0.55)	
取り残された気分だ	里帰り	1.43(0.62)		1.41(0.60)		1.51(0.68)	p＝.046
	里帰なし	1.37(0.58)		1.36(0.58)		1.36(0.55)	
一人ぼっちで寂しい	里帰り	1.30(0.57)		1.36(0.61)	p＝.012	1.36(0.52)	p＝.048
	里帰なし	1.23(0.47)		1.22(0.49)		1.23(0.43)	

平均値（SD）
Mann・WhitneyのU検定

表5 里帰りと夫婦関係

		出産後4か月	1年		2年
妻との関係は安定している	里帰り	6.04(1.01)	5.63(1.13)	p＝.039	5.60(1.06)
（最大／最小 10/1）	里帰なし	6.04(1.07)	5.82(1.13)		5.90(1.02)
妻との関係に満足している	里帰り	6.03(1.09)	5.60(1.28)	p＝.026	5.46(1.23)
（最大／最小 10/1）	里帰なし	6.06(1.09)	5.79(1.19)		5.84(1.19)

平均値（SD）
Mann・WhitneyのU検定

V. 考　　察

里帰りの割合は調査により8～37%と大きな差が認められる[8]。地域によっては里帰りの割合が97%という報告もある[9]。本調査の結果では里帰りと里帰りなしがほぼ半数であった。これは首都圏での調査であり，核家族が多く，比較的里帰りの割合が多かったと考える。本調査の結果から，出産後4か月において，里帰り群の父親は，父親としての実感が有意に低かった。玉田ら，加藤ら，著者らの報告でも，出産前後の里帰りは初期の父子関係の確立が難しいことを指摘しており[1~3]，同様の結果であった。

本調査の結果から，明らかになった新しい知見として以下の二点があげられる。

一点目は，父親としての実感は，児の出生1年後，2年後において，差はみられず，父親はその後の日常生活や子育ての中で父親としての実感を得ていくことが可能であることが示唆された。

二点目は，父子関係，夫婦関係についてである。出産後4か月では里帰りの有無で父子関係，夫婦関係に有意な差はみられないものの，1年，2年と経過をすると，里帰り群の方が，子どもに対する感情や子育てに対して「一人ぼっちで寂しい」，「取り残された気分だ」，「イライラする」，「毎日がおもしろくない」という孤独や焦燥感をもっていることがわかる。夫婦関係においても，里帰り群の方が夫婦の関係に不満足感，不安定さを感じていた。これらのことから，里帰り群の父親は，生まれた子どもを家族の一人としてなかなか受け止められず，子どもがいる生活に慣れない，父親としての新しい生活の変化が受け止めにくい状態にあることがわかる。

先行研究から父親としての自覚，役割遂行，精神健康状態，父子関係，夫婦関係はすべて影響をし合っていることが報告されている[10~12]。父親は，妊娠期に両親学級等で妊娠や分娩の経過，胎児や新生児の様子，沐浴の方法など，新生児の状況を学ぶ機会があっても，乳児，幼児期の特徴や生活状況の理解は十分とはいえない。今後，沐浴に引き続き，どのような育児参加が父親に求められているのか，父親としての行動を具体的にイメージできるような支援をしていくことが大切

Presented by Medical*Online

である。また，乳幼児を持つ父親の役割意識を高めるためには，子どもを理解し，関わる機会を増やす，父親同士が気持ちや体験を共有する場を作ると報告がある[13]。

今後，父親への育児支援として，著者らが行っている子育て期の夫婦を対象にした夫婦サロンが活用できると考える[14]。このサロンは月1回開催しており，10組前後の夫婦の参加がある。サロンでは，子育てのこと，夫婦関係のこと，祖父母のことなどを話し合い，自分の気持ちをみつめなおす時間をもっている。参加した父親は「話すことで，自分は1人ではないと思える」，「他の親の話を聞くと安心する」，「厳しく叱ることが減った」，「他の父親の話が参考になる」，「親としての充実感が増した」，「妻の考えがわかった」，「家では妻に話せないことがここでは話せる」などのサロンへの感想を持っていた。これらのことから，父親は夫婦サロンに参加することにより，精神的な安定や子どもに肯定的な感情が持てるようになっていると推測する。また，夫婦関係や夫婦間でのコミュニケーションを他の夫婦を交えて客観的に見ることにより，お互いの状況を理解する，思いを共有することができるようになっている。里帰りを経験した父親に対する育児支援のひとつとして，このような場所を設けることも効果的であると考える。

Ⅵ．結　　論

出産前後の里帰りが父子関係，父性，夫婦関係に与える影響と支援方法を明らかにした。

里帰り群の方が「子どもが邪魔である」，「子どもがわずらわしい」など，子どもに対する負の感情もっており，夫婦関係が不安定であった。今後，父親の子ども理解を促し，孤立感や焦燥感を軽減し，また，夫婦関係を調整できる夫婦サロンのような支援が必要であることが示唆された。

本研究に協力をいただいた皆様に深く感謝いたします。なお，この研究は文部科学省科学研究費基盤研究（B）ジェンダー・センシティブな子育て家族支援グループ（課題番号20300233）の助成を受けて行った研究の一部である。また，本研究の一部は第56回小児保健学会（大阪），第10回国際家族看護学会（京都）で発表した。

文　　献

1) 玉田太郎，阿部直英，本山光博，他．里帰り分娩の母子保健学的研究．厚生省心身障害研究　母子保健システムの充実・改善に関する研究　総括報告書 1985；453-463.
2) 木村恭子，田村　毅，倉持清美，他．出産・子育て体験が親の成長と夫婦関係に与える影響（5）―里帰り分娩との関連―．東京学芸大学紀要　2003；6（55）：123-131.
3) 加藤忠明，斉藤幸子，加藤則子，他．里帰り分娩の実態調査．小児保健研究　1986；45（1）：32-36.
4) 野村雪光，川村　豊，品川信良，他．里帰り分娩における親子関係．周産期医学　1983；13（12）：380-383.
5) 久保恭子，刀根洋子，及川裕子．わが国における祖母の育児支援―祖母性と祖母力―．母性衛生　2008；49（2）：303-311.
6) 小林由希子．出産前後の里帰りにおける実母の援助と母子関係・母性性の発達．日本助産学会誌　2010；24（1）：28-39.
7) 瓢風須美子．里帰り分娩が家族の発達段階の達成に及ぼす影響―都市における調査成績をとおして―．母性衛生　1987；28：1.
8) 森　恵美，他．系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学Ⅱ；東京：医学書院．2010：133.
9) 森田せつ子．里帰り出産における夫婦の里方との関係．愛知母性衛生学会誌　2002；15-23.
10) 木越郁恵，泊　祐子．周産期における夫の父親や役割獲得プロセス．家族看護学研究　2006；12（1）：32-38.
11) 臼井雅美，渡辺節子，谷崎　恵．父性意識に関する研究―看護・医学領域に焦点をあてて―．母性衛生 1996；37（2）：283-287.
12) 吉田弘道，野尻　恵，安藤朗子，他．育児における父親の役割と父親への援助に関する研究　その1：子どもの心理的問題と父親の役割との関連性．小児保健研究　1997；56：20-26.
13) 川上あずさ，牛尾禮子．父親の育児に対する役割意識に関する要因とその支援方略．小児保健研究 2008；67（3）：496-503.
14) 久保恭子，岸田泰子，及川裕子，他．家族を支える看護の工夫．小児看護　2010；32（9）：1198-1202.

Presented by Medical*Online

〔Summary〕

The purpose of this study is to clarify the effects of mothers' return to their parents' home before and/or after childbirth on the formation of fatherhood, father-child relationship and marital relationship, and to find a way of how to support the fathers. A longitudinal questionnaire survey was started to ask 196 fathers about father-child relationship, fatherhood, and marital relationship when their wives (mothers) were pregnant. The last survey was conducted when their children reached the age of two. The results showed that feelings about the presence of children were more negative in the fathers' group where mothers returned to their parents' home before and/or after childbirth, as can be seen from their answers such as "my child can be a nuisance", "my child is annoying" etc. In the above-mentioned fathers' group, the scores about the questions asking their marital relationship (e.g., "Are you satisfied with the relationship with your wife?", "Is your marital relationship stable?") were significantly lower, which demonstrated their marital relationship is unstable. The results suggested the need of a place where those fathers can more deeply understand their children and find pleasure in child-care, and their marital relationship can be rebuilt.

〔Key words〕

mother's return to her parents' home for childbirth, father-child relationship, marital relationship, fatherhood, support for fathers

Presented by Medical*Online